

令和6年度 学校評価報告書

丹波篠山市立 大山小学校

校長 山 本 真

1 学校教育目標等

やさしく かしこく たくましく
～豊かなつながりを通して、夢を持って生きる子を育む～

2 今年度の重点目標

安全で安心して学べる教育環境づくりに取り組む。

- ①安心できる学級づくりや一人一人の個性を生かした計画的な学級経営に努める。
- ②いじめや問題行動・不登校傾向等が見られる児童について、未然防止・早期発見・早期対応に組織的に取り組む。
- ③全教職員の協働体制を充実し情報共有や児童理解に努め、スクールカウンセラー等専門家や専門機関と積極的に連携し、気になる児童の早期発見とコンサルテーションに努める。

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
教育課程・学習指導	学力向上	B	学力調査の結果分析を丁寧に行い授業改善や課題の対策を進めた。また、各学年の課題を共有し、個々の課題にあわせた学習に取り組めた。
	児童の主体性を育む教育活動の推進	A	学級活動や児童会活動を活性化し、異学年交流による学習や様々な活動を推進し、自治的な活動を通して、主体性を育むことができた。
生徒指導	組織的な取組による情報共有と早期対応	A	いじめアンケート・子ども個人懇談の実施、生徒指導委員会・学団会議の定期開催等により児童理解や職員の共通理解が進んだ。組織的な取組の充実により、適切な対応に努めることができた。
	スクールカウンセラー(S C) スクールソーシャルワーカー(S S W r)等との連携強化	B	組織的な対応による環境調整のためにS S W rを交えたケース会議を継続的に実施しすることができた。また、S Cの児童観察や面談を生かした指導方法の工夫改善が進んだ。
特別支援教育	個に応じた指導支援の充実	B	特別支援教育委員会などで個別の指導計画の内容検討を進めるとともに、関係機関と連携し教育相談等を生かした指導の充実に努めた。看護師と連携した医ケア児への指導支援など、個に応じた指導体制づくりに取り組んだ。
保護者や地域との連携	安全点検 安全・安心な学校づくり	B	P T Aや学校運営協議会との連携による安全点検や登下校の安全確保の充実に図り、危険箇所 の早期発見や早期対応に努めることができた。 地域の方々による見守り活動や付き添い下校を実施することができた。

	地域とともにある学校づくり	A	「大山っ子応援団」など校区の外部講師を積極的に招聘し、効果的に学習を行うことができた。地域のアドバイザーの尽力により学校と地域とをつなぐふるさと教育カリキュラムの推進ができた。
--	---------------	---	--

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標を目指す児童像につなげてわかりやすい表現に変えたことにより、子どもや教職員に浸透し、意識しやすいものとなった。 ・今後も地域・学校・家庭が連携・協力して、子どもたちの成長に向けて協議したり一緒に活動したりできる体制の強化に努めていくことが大切である。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の良さを生かして、一人一人を大切にしたい取組をさらにすすめていければよい。 ・人として当たり前身につけておきたい習慣やルールについて、どのように大人が関わって育てていくのか学校・家庭・地域で話し合ってみる機会を持つことも必要になってきていると感じる。 ・地域・学校・家庭の連携により、安全で安心して学べる教育環境づくりが進められると考えられるので、それぞれの立場で積極的な関わり方も考えていく必要がある。 ・児童アンケートで「そうは思わない」と回答している内容については、教職員がそういった思いを丁寧にくみ取りながら見ていく必要がある。
--

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
教育課程・学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童への学習に関するアンケートで多くの子どもたちが肯定的な回答をしている。様々な発達段階の子どもたちに合わせた学びを提供されていることがわかる。 ・小グループや少人数での学習形態を取り入れることで、発表の苦手な子どもたちや全体の場で「わからない」と言えないとも言えるような環境づくりができてきているのが良い。 ・授業参観をしたときに気になったこととして「鉛筆の持ち方」がある。基本的なことを根気強く指導していくことがさらに大切になってきていると感じる。 ・今後の児童減少を見据えて人とのつながりを意識し、子どもたちが主体的に活動することがますます大切になってくる。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・上級生の子が下級生の子をしっかり見ていく環境を作ることで、いじめなどを防ぐことになるので、子どもたちにとって関わり合う人を増やすことが安心につながると思う。 ・子どもたちのあいさつの様子を見てみると、親の前ではきちんとしているが、親がいないところでは課題がみられる子が増えているように感じる。 ・生活の中で当たり前のことがきちんとできていることの素晴らしさをお互いに認め合ったり伝え合ったりしていくことが、子どもたちの自己肯定感を高めることにつながる。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧なご指導のもと、一人一人の児童が成長している。今後も実態把握に努め、個に応じた指導を工夫して引き続き子どもたち一人一人に寄り添った指導をしてほしい。
保護者や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方とのふれあいが、ふるさとを大切に思う気持ちや学びをさらに強くしてもらえらると思う。 ・児童が教室の外でスイカや天内芋の栽培等、体験学習が行えていることは地域の協力があるおかげである。地域の協力者を紹介することもできるので続けていってほしい。 ・ふるさと教育の一環で子どもたちの学習に関わってきた地域の者として、子どもたちがどう思っているのかをさらに詳しく知ってみたい。 ・少人数の親しみやすい環境に慣れている子どもたちが中学校に進学し、大人数となる環境の変化に適応できるかが保護者としては心配である。